

はじめに

現在、競技人口が減少している種目については、競技を行う機会や場所の確保が困難になることなどにより、競技活動や競技力の維持・向上が図られなくなり、競技人口の減少が一層加速するといった事態が発生していると考えられます。

こうした事態を放置すれば、競技種目の多様性を損なうだけでなく、競技文化そのものの喪失をも招くことになり、本市が目指す、新しい「スポーツ王国広島」の実現にとって、大きな障害となるおそれがあります。

このため、全ての市民が日常生活の中でスポーツに接し、あるいは参加することができる環境を整え、全ての市民が居心地のよい、笑顔であふれる平和な街を体感できる、新しい「スポーツ王国広島」の実現のため、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで、全ての市民がその思いに沿って様々なスポーツと関わりが持てるようにする必要があります。

こうしたことから、今後競技人口が減少すると見込まれる種目のうち剣道及び柔道を研究対象のモデルとして選定し、外部の有識者等を入れた研究会を開催し、ハード及びソフトの両面にわたる効果的な対応策について検討しました。

また、他の競技人口が減少すると見込まれる種目や競技人口が少ない種目等についても、競技人口や指導者、競技場所などに関し、同様な課題があると考えられることから、この研究会で得た成果については、他の競技種目についても活用していくこととします。

広島市における競技人口減少種目等への対応について（案）

～「広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会」の研究成果～

令和6年3月
広島市

<資料目次>

- 1 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 新しい「スポーツ王国広島」の考え方・・・・・・・・ P 1
- 3 中学校運動部活動及びスポーツ少年団の現状・・・・・・・・ P 1
- 4 研究会での意見等及び対応の方向性・・・・・・・・ P 3
- 5 今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

参考資料1 広島市中学校運動部活動の状況（部員数、部活動数の推移）
参考資料2 広島市スポーツ少年団の状況（団員数、回数、指導者数の推移）
参考資料3 広島市スポーツ施設の一覧・配置図
参考資料4 中国5県・政令指定都市等の武道場・武道館の整備状況
参考資料5 競技人口減少種目等への対策検討に係る東北地方への視察結果

広島市における競技人口減少種目等への対応について

1 概要

現在、競技人口が減少している種目については、競技を行う機会や場所の確保が困難になることなどにより、競技活動や競技力の維持・向上が図られなくなり、競技人口の減少が一層加速するといった事態が発生している。こうした事態を放置すれば、競技種目の多様性を損なうだけでなく、競技文化そのものの喪失をも招くことになり、本市が目指す、新しい「スポーツ王国広島」の実現にとって、大きな障害となる。このため、今後競技人口が減少すると見込まれる種目等を中心に、ハード及びソフトの両面にわたる環境づくりを目指す。

2 新しい「スポーツ王国広島」の考え方

スポーツは、言葉や国籍、信条、性別の違いを超えて感動を分かち合えるものであるとともに、それ自体が生きがいになるだけでなく、健康の増進や地域コミュニティの活性化、まちづくりにも寄与するものである。

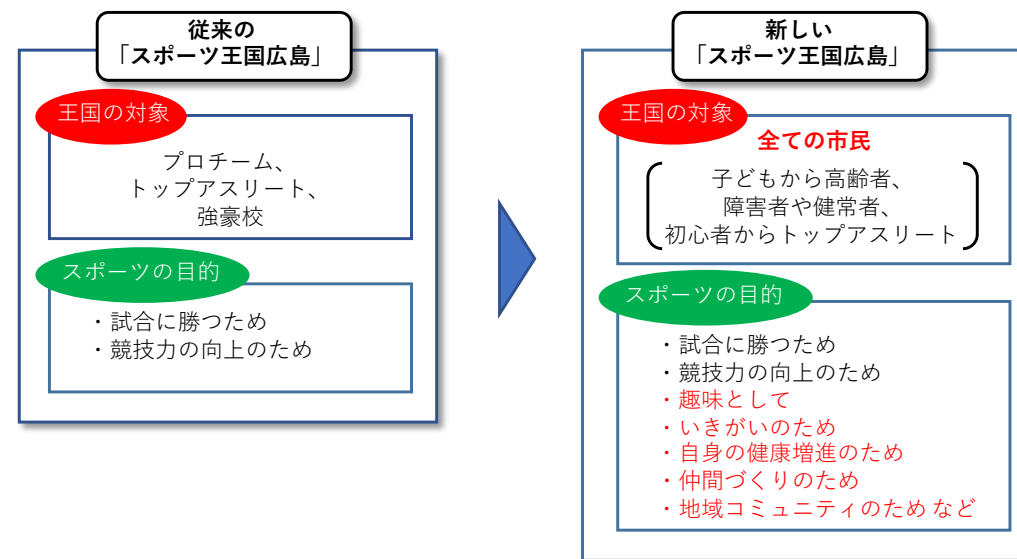
ここ広島において、全ての市民が日常生活の中でスポーツに接し、あるいは参加することができる環境が整うならば、全ての市民が居心地のよい、笑顔であふれる平和なまちを体感できるようになる。

こうした広島の将来像を実現するためには、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで全ての市民がその思いに沿って様々なスポーツと関わりが持てるようにする必要がある。

そこで、広島市は、このような将来像を見据え、『新しい「スポーツ王国広島」を目指して～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～』というスローガンを掲げ、ハード及びソフトの両面にわたる環境づくりを目指すこととする。

＜参考：従来の「スポーツ王国広島」との相違＞

従来の「スポーツ王国広島」は、多数存在したプロチームやトップアスリートが、競技力を発揮するというイメージをもとに掲げたものであるのに対し、新しい「スポーツ王国広島」※は、全ての市民が主役となり、その思いに沿って様々なスポーツとの関わりが持てるようにするというイメージをもとに掲げたものである。
 ※新しい「スポーツ王国広島」は、広島市基本構想第5次広島市基本計画《2009-2020》から導入された考え方



3 中学校運動部活動及びスポーツ少年団の現状

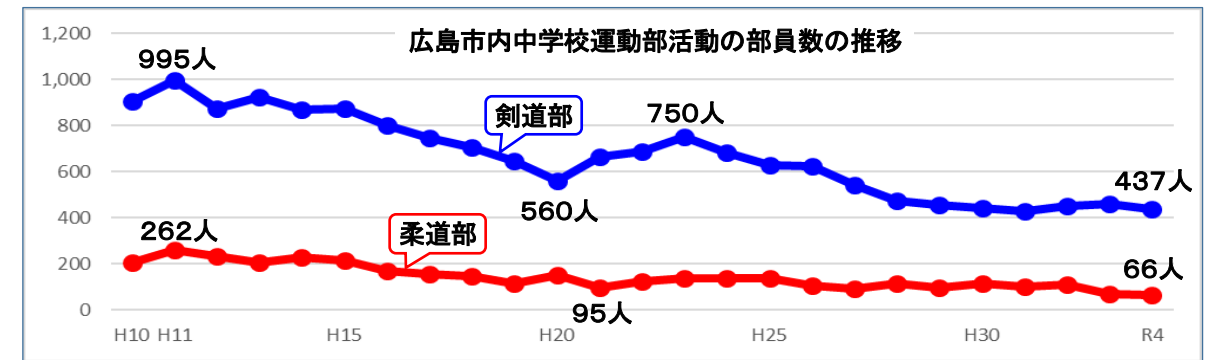
「広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会」では、中学校の運動部員数やスポーツ少年団の団員数が減少し、さらなる競技人口の減少が懸念される種目として、「剣道」及び「柔道」を研究対象のモデルとして選定している。それぞれの状況については次のとおり。

(1) 広島市内中学校の運動部活動の状況

ア 部員数 (参考資料 1-1)

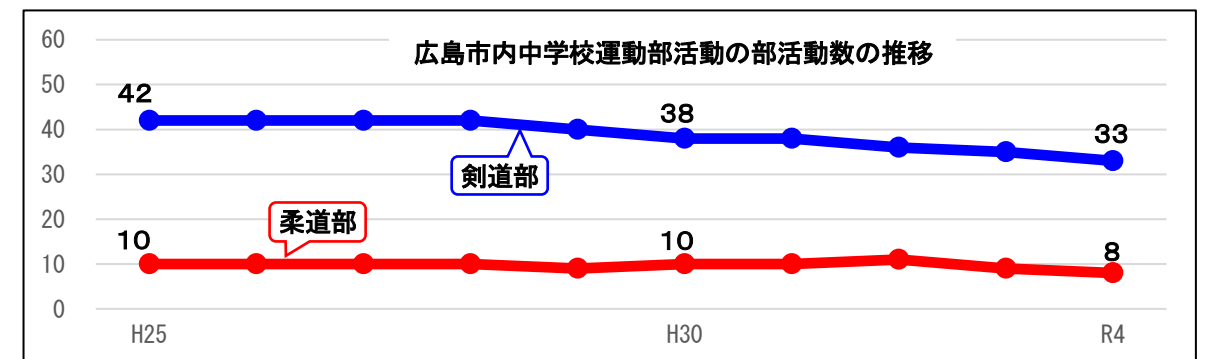
広島市内中学校（国立、県立、市立、私立の全てを含む。以下同様）の運動部活動に関しては、過去のデータがある平成10年度からの数字を見ると、部員数の総数は、最も多い平成11年度の27,613人に対し、令和4年度では、20,046人と27.4%減少(▲7,567人)している。なお、データのある15競技のうち平成11年度と比較して増加しているのはバドミントンのみである。

剣道部及び柔道部について、どちらも最も多かった平成11年度と令和4年度を比較すると、剣道部については995人から437人へと56.1%減少(▲558人)、柔道部については262人から66人へと74.8%減少(▲196人)している。



イ 部活動数 (参考資料 1-2)

令和4年度時点で、広島市内中学校に剣道部があるのは80校中33校（市立中学校に限ると63校中24校）、柔道部があるのは80校中8校（市立中学校に限ると63校中5校）となり、剣道部、柔道部ともに減少傾向にある。



ウ 総生徒数に対する運動部活動の加入率

広島市内中学校の総生徒数に対する運動部活動の加入率は、令和4年度は59.2%であり、平成25年度の65.0%と比較して、5.8ポイント減少している。

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
総生徒数	35,038	34,838	33,180	34,593	34,811	32,824	33,173	33,400	34,498	34,514
加入者数	22,769	22,753	22,732	22,389	22,461	21,467	21,441	22,039	21,204	20,429
加入率	65.0%	65.3%	68.5%	64.7%	64.5%	65.4%	64.6%	66.0%	61.5%	59.2%

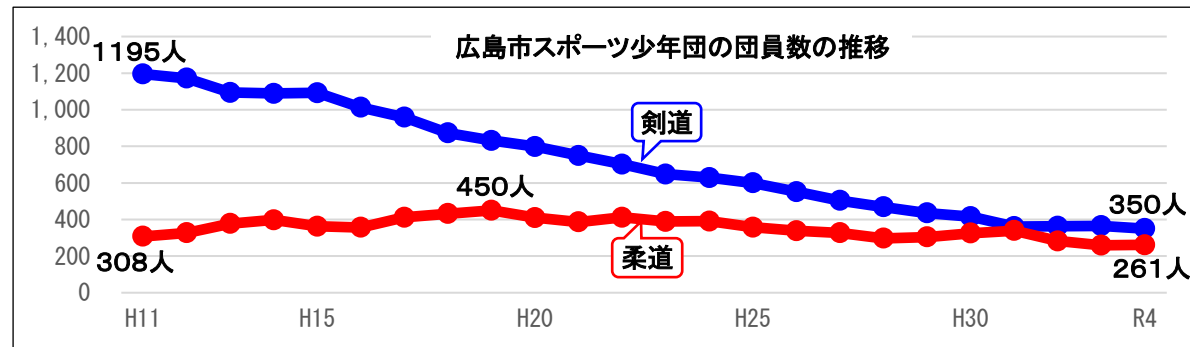
広島市における競技人口減少種目等への対応について

(2) 広島市スポーツ少年団の状況

ア 団員数 (参考資料 2-1)

広島市スポーツ少年団について、過去のデータがある平成 11 年度からの数字で見ると、団員数の総数は、最も多い平成 11 年度の 10,634 人に対し、直近の令和 4 年度では、6,485 人と 39.0%減少 (▲4,149 人) している。

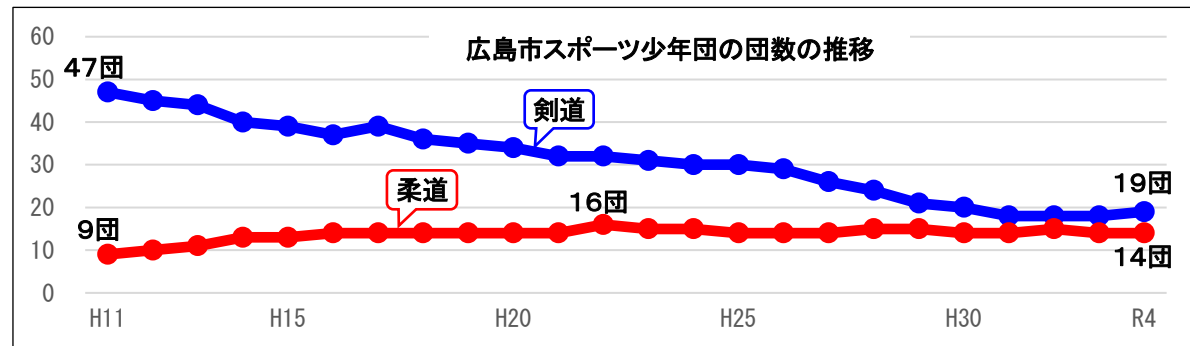
剣道及び柔道の団員数については、剣道は最も多い平成 11 年度の 1,195 人に対し、令和 4 年度は 350 人と 70.7%減少 (▲845 人)、柔道は最も多い平成 19 年度の 450 人に対し、令和 4 年度は 261 人と 42.0%減少 (▲189 人) となっている。



イ 団数 (参考資料 2-2)

スポーツ少年団の団数の総数は、最も多い平成 22 年度の 336 団に対し、直近の令和 4 年度では、241 団と 28.3%減少 (▲95 団) している。

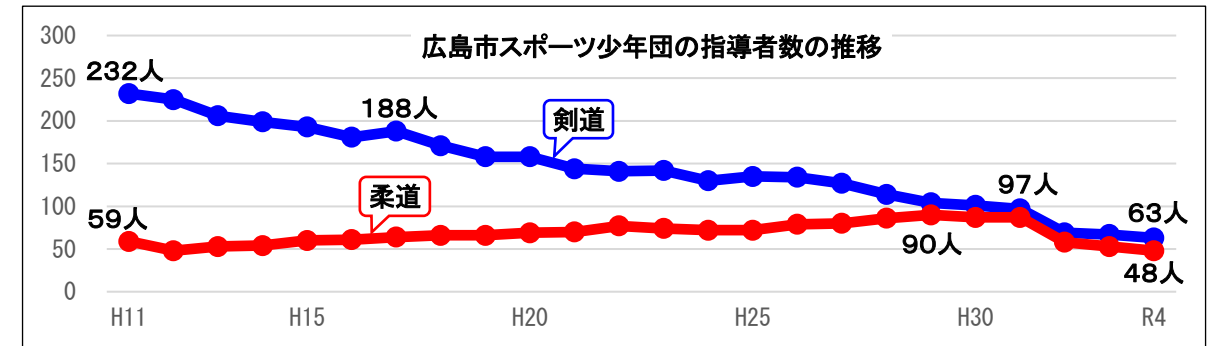
剣道及び柔道の団数については、剣道は最も多い平成 11 年度の 47 団に対し、令和 4 年度は 19 団と 59.6%減少 (▲28 団)、柔道は最も多い平成 22 年度の 16 団に対し、令和 4 年度は 14 団と 12.5%減少 (▲2 団) となっている。



ウ 指導者数 (参考資料 2-3)

スポーツ少年団の指導者の総数は、最も多い平成 29 年度の 1,491 人に対し、直近の令和 4 年度では、796 人と 46.6%減少 (▲695 人) している。

剣道及び柔道の指導者数については、剣道は最も多い平成 11 年度の 232 人に対し、令和 4 年度は 63 人と 72.8%減少 (▲169 人)、柔道は最も多い平成 29 年度の 90 人に対し、令和 4 年度は 48 人と 46.7%減少 (▲42 人) となっている。



広島市における競技人口減少種目等への対応について

4 研究会での意見等及び対応の方向性

区分	研究会での主な意見	対応の方向性
競技者（競技人口） について	<ul style="list-style-type: none"> ●日本体育スポーツ健康学会において、中学生年代における柔道人口減少について、日本中学校体育連盟の加盟数に着目した発表があった。青森、岩手、秋田、山形、茨城、群馬、富山の7県はそれほど減少していない。逆に減少しているのが、東京、長野、大阪、広島、沖縄、この違いは何なのか。現状把握として今広島がどういう状況にあるのか。地域の道場といった柔道をする場所はどうか変えているのか。増えているのか減っているのか。指導者の人達はどのくらいいるのか。広島の中でも地域性があるかもしれないし、そういったデータが取れば、理由や原因もはっきりしてくるのではないかと。【服部委員】 ●子供達が競技（剣道）を始めるきっかけについて、剣道を始めるきっかけは、兄弟がやっている、親がやっていた、同級生がやっているから誘われたというのがあるが、やはり少なくなっている。どうするかというのは今からの課題だと考える。【名越委員】 ●剣道は、町の道場として小学校中学校の体育館を利用して、各地域の人がいろいろやっている。ただ、中学校で剣道競技をやっているところは少ないので、一気に減る。私も小学校で指導をしているが、小学校でやっていたのに中学校に行ったら剣道部が無いので、卓球をしたり、バドミントンをしたりする。という状況で減ってきている。【名越委員】 ●子供達が競技（柔道）を始めるきっかけについて、柔道を始めるきっかけは、小学生は、親がやっていたから、近所の友達がいるからというパターンで、昔に比べて少なくなっているが、そんなに減少していない。中学校になると、親も仕事が忙しい、連れて行くのが大変だと、今まで通っていたスポーツ少年団や道場をやめて他のクラブに入るといったパターンが多い。【花本委員】 ●競技者・競技人口の増加ということになると、市でやっている初心者向けスポーツ教室をきっかけに競技を始め、競技団体等が育てれば少しでも増えるのではないかと。スポーツ協会でも色々なスポーツ教室をやっているが、チラシを学校に配ることができないため広報に限りがある。市の主催ということであれば、学校にも配ることができ、何かスポーツを始めたいとふわふわ思っている子供や保護者に初心者向け教室のチラシが渡るといったことは、スポーツを始める良いきっかけになっていると思っている。是非これは何らかの形で拡充していただき、色々な競技でやってもらいたい。【大岡委員】 ●剣道も4年前に市の初心者向けスポーツ教室をさせていただき、20人以上の参加があった。最終的には参加した半分程度が剣道を始められた。非常に良かった。チラシの配布方法としては、市の広報もあるが、各区の剣道連盟所属の道場に配布を指示し、かなり成果があった。先日の全日本剣道選手権大会で広島県警の榎田選手が優勝したが、今後教室を開催する場合はそういう選手を招くようにしたいと考えている。【名越委員】 ●柔道と剣道のスポーツ少年団の団数や登録団員数が落ち込んでいる状況が見える。その要因の一つとして、日本スポーツ少年団が指導者に公認指導者資格を取得させるように制度を変えてきており、その受講や経費などが指導者の負担となり、スポーツ少年団の指導者が減少していることが考えられる。また、少子化の影響もあって団員が集まらないため、苦渋の決断で団を解散する状況もあると聞いている。従来は家の近くに道場があり、剣道や柔道などを始めるケースが多くみられたが、道場の減少により、サッカーやバスケットボールなどの盛んな競技を始めることが多くみられる状況である。【大岡委員】 ●競技人口が減ると施設も自然に消滅してくるという状況にある。山陽高校の場合、野球部の部員は150～160人もいるが試合に出られるのは20～30人、選手が多すぎるとなかなか活動が難しい。対して、郡部の方は少子化のために選手がいなくなり、団体競技は廃部していきこうという状況にある。これをなんとかレンタル、実業団の野球の補強選手のように貸し出して、存続することができないか。ただ、まだまだ高野連や高体連のルールなど色々ある。地域の拠点校を作って子供たちを集めていく。連盟や高体連・中体連を巻き込んだ機関をもってやらないと進まない。【市原座長】 ●柔道の場合は、スポーツ少年団や各支部があり、近くに住む人は行けるような形は取っている。しかし、一人で行くことが難しい子や、保護者が連れていくことができない子、そういう場合にはこういうことができるというようなアイデアを出し合う場があれば、機会を設けたい。【花本委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子供達が剣道や柔道を始めるきっかけとして、親や兄弟がやっていたから、同級生や友達をやっていたから、との意見があり、自分の周りに経験者等がいなければ、競技を始める機会を得ることが難しい状況が見られる。 このため、周りに経験者等がない環境にあるスポーツ未経験者や初心者である子供達も、自分が興味のあるスポーツに触れる機会を得ることができるようになる。 具体的には、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、競技団体が主催する子供達等を対象とした初心者向けスポーツ教室・体験会等に関するチラシの作成・配布などに取り組む。 また、特に事務局機能が脆弱な競技団体等に対しては、市が共催でスポーツ教室等を開催するなど、必要に応じた支援を行う。 ■ 小学生のときは競技をしていたが、中学校に進学すると部活動が無いから、他の競技の部活・クラブに入るといった状況があることから、そうした者が競技を継続することができるように、競技団体等と連携し、中学校の部活動以外での競技活動の場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討する。 <p>※ 中学校部活動の地域移行においても、受け皿となる競技団体等や指導者の確保が課題となっていることから、本取組は地域移行にも活用することができる。</p>

広島市における競技人口減少種目等への対応について

区分	研究会での主な意見	対応の方向性
<p>競技者（競技人口）について【続き】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大学でのスポーツ活動の状況について、いわゆる燃え尽き症候群ではないが、高校ではインターハイにも出たような選手が、大学に入ったらもういいですという学生はちらほらいる。そのまま続ければ、インカレとかにも行けそうな選手でもさっと手を引いてしまう。現状はそう。【服部委員】 ●柔道、剣道の実業団での継続については、少ない。柔道の場合は、警察、刑務所とか特殊なところはあるが、実業団として活動しているところは県内にはほとんどない。【花本委員】 ●フランスではすごく柔道が盛んで、小学校のカリキュラムにも入っている。国家資格を持った指導者が教えていて、柔道人口も日本よりも多い。柔道をやっている人に聞くと、フランスでは勝敗よりも礼儀作法や挨拶の仕方というところを学校で重点的に教えているため、親がやらせたいと思う。勝つだけではない魅力の発信をこれから考えていかなければならない。【服部委員】 	
<p>指導者（競技力の向上）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●剣道は特殊な競技であるため、継続的にやっていないと指導できない。言葉だけじゃなく、指導者と選手、教える人と教えてもらう人が同じ土俵でやるので。剣道については、広島市では高齢の指導者が一生懸命やっているの、非常にいい状況にはある。若手の指導者が仕事があつてなかなかできないという状況はある。【名越委員】 ●剣道の指導者には特別な資格はないが、全日本剣道連盟が段位認定している。また、錬士、教士、範士と称号認定をしている。錬士以上は指導していいという感じであるが、取らなくても3段、4段の先生が子供を教えることはある。剣道は、幼少年については礼儀作法が主なので誰でもできる。【名越委員】 ●競技力向上のための指導者の発掘・育成について、柔道では、後輩や教え子に、出稽古をしないと試合には出れないよと進めている。指導者の資格、A級、B級、C級のうちB級までは県内で取れるから、どんどん行って応募して、人数的にはたくさん受けている。その面ではいい状況にある。【花本委員】 ●競技力向上のための指導者の発掘・育成について、剣道は、全日本剣道連盟が定めている指導方針、剣道の基本理念、これが基本になって、これに基づく指導でないとダメ。指導者講習会というのを年2回ぐらいやって、段位に関わらずその講習を受ける。基本的な方針に基づいて教えるようにやっている。技量の差はあるが。【名越委員】 ●競技力の向上・指導者という意味では、市スポーツ協会でやっている（公財）日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格制度に基づく講習会の受講に関する助成等の拡充を是非ご検討いただきたい。日本スポーツ協会もNO スポハラということで力を入れており、子供を送り出す親御さんとしても安心。【大岡委員】 ●今、中学校の部活動の地域移行が国の方からきて、そういう中で「道」と呼ばれるものを指導できる人達をどう確保していくか。大学で部活とかを専門にやっている柔道部や剣道部の部員が、総合型地域スポーツクラブに出向いてジュニアを教える。大学で部員でやっている人達も活用できるシステムができたらいと思う。【服部委員】 ●大学から今も来てもらっているし、OBも来てもらっている。自分の元道場やスポーツ少年団にくるんじゃないかなと思う。ただ、市立中学校の場合、どうしても本当に減少しているの、そういう活動がなされていないような気がする。誰か呼び寄せる人が一人でもいれば、何人が行くだろうし、そういういいムードが出てくれば、もっともっと広がっていくのではないかなと思う。【花本委員】 ●今、学校は教師の働き方改革に取り組み大変な状態である。本業以外は極力アウトソーシングしようと、特にクラブ部活動の指導者の負担を軽減させることを目的に、外部コーチ導入の動きが出始めている。ただ、外部コーチといっても誰でもいいというわけではなくて、指導者としてしっかりした人でなければならない。それには、教員資格を有する人や、競技団体の指導者資格を持った人が必要でなかなか適任者が見つからない。しかし、日本人は資格を持つことに意義と喜びを感じモチベーションを高めるので、日本スポーツ協会の上級コーチ資格や日本オリンピック委員会のナショナルコーチ資格のような広島独自の資格制度を導入し、競技普及のマイスターなどを養成することも一考ではと思う。【市原座長】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広島市剣道連盟及び広島市柔道連盟においては、指導者による指導状況や指導者の資格取得等について、現在はある程度の水準を保つことができているとのことである。ただし、今後のことを見据え、新たな指導者の発掘や育成についても、検討しておく必要がある。このため、新たな指導者の発掘・育成の観点から、指導未経験者や指導者になることを検討している者等を対象に、競技団体による講習会・研修会を開催する。具体的には、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、初心者向けスポーツ教室を開催する際に、その前後において同競技の競技連盟による指導未経験者・初心者向けの指導講習を開催するとともに、初心者向けスポーツ教室にも参加してもらい、実践的な指導方法等について習得する。 ■ 広島市スポーツ協会に加盟している競技団体等の指導者を対象に、国内の優秀な指導者を招いた講習会開催しているが、場所が確保できずに開催を取りやめているケースがあるため、場所の確保について支援するなどの制度拡充を行う。また、指導者が、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者制度に基づく指導者養成講習会等を受講する場合、旅費を助成しているが、これについて講習会等への受講対象者を増やすなどの拡充を行う。 ■ 指導者の確保のため、運動部のある大学等と連携し、大学等の運動部員を指導者として招いて、小学生や中学生等の指導を依頼するように調整を図る。 <p>※ 現在、広島市では、中学校の部活動の地域移行に関し、学区体育協会やスポーツ少年団等の地域団体等に中学生の部活動の指導を依頼等することを検討しているが、上記の取組については、その際の指導者研修にも活用することができると考えられる。</p>

広島市における競技人口減少種目等への対応について

区分	研究会での主な意見	対応の方向性
<p>競技者（競技力の向上）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今、プロの選手にしろ、どの競技でも世界のトップで戦う選手は、皆、低学年から競技を始めており、子供の頃から始めないと世界のトップに行けないというような状況になってきている。【市原座長】 ●私が、オリンピック委員会の強化担当の時分、JOCで委員長として国際競技力向上戦略の「JOCゴールドプラン」を立ち上げた。その内容は、ソフト面で、子供の頃からナショナル選手までの「一貫指導システム」の構築、ハード面ではトップアスリートが競い合う「ナショナルトレーニングセンターの建設」、ヒューマン面では「ナショナルコーチアカデミー」を立ち上げトップ選手を指導する指導者の資格認定制度など実施した。先ほどからの論点であるが、<u>一貫指導で子供の頃から始めた競技をずっと継続させるシステムをつくり、そして、JOCのナショナルトレーニングセンターのような競技場（武道場）を求め、加えて、ナショナルコーチアカデミーのように、オリンピックで金メダルを取った選手でも我流でなく、ちゃんと資格を取ってきっちり教える指導者の育成、この三点をシステム化し途切れず継続させていくことが課題だ</u>と思う。【市原座長】 ●スポーツ少年団での一貫指導について、スポーツ少年団は、かなり多種目に渡っている。ただ、一貫指導ができていないかという点、<u>難しい状況にある</u>。例えば、バレーボールのスポーツ少年団は小・中学校まで登録団体数は多いが、そのスポーツ少年団ですべて活動する状況ではなく、高校進学時にはインターハイなどを目指して強豪校に選手が集まるなど、一貫指導はできていないと感じる。中には、競技団体が中心となって一貫指導に取り組んでいるところもあるが、活動場所が確保できないという問題もある。スポーツ少年団は、スポーツを始めるきっかけとして敷居をできるだけ低くして取り組んでいるが、団員が将来に渡って競技を続けていくのかということになると、現状ではなかなか難しい状況にある。【大岡委員】 ●一貫指導体制の話もあるが、いわゆるスポーツ王国広島^{の過去と現在}ということ、資料1に示されているが、スポーツのいろいろな目的に応じた養成をしていくんだと、これは全国的になっていると思うが、ある意味一貫指導でやっていた選手が一度ドロップアウトしたときに、<u>戻れない可能性もあるが、そういう意味では私は勝手に一貫指導体制に対して「多貫」、ある程度大きな軸は一本でいいと思うが、いろいろと枝分かれをして、怪我をしてリタイアしても、また戻って来れるような。その間は、趣味や生きがいとして楽な形で続けながら、また競技に戻って来れる環境が必要なんじゃないかな</u>と思う。減少傾向を食い止める方策としては必要ではないか。【服部委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 競技を続ける中で、競技を楽しむだけでなく、<u>スポーツ大会等で良い結果を残したいといった高い目標を持つ子供達の目標の達成を支援するため、競技者の競技力の向上についても取り組む</u>。 このため、これまで本市で取り組んできた「競技力向上対策事業（ジュニア選手を対象とした強化合宿、遠征に対して助成）」や「国民スポーツ大会等を目指すジュニア選手育成事業（各競技の優秀な指導者の招へい等に対して助成）」などの取組の成果等を分析し、取組の強化や拡充等について検討する。 ■ 一貫指導体制に対する「多貫」指導の意見については、<u>スポーツを生涯に渡り、様々な形でスポーツに関わりを持とうとするものであり、新しい「スポーツ王国広島」の考え方に沿うものであるため、今後のスポーツ振興の取組において参考とする</u>。
<p>中学校の部活動の状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●柔道は専門の指導者（教員）が中学校にいない。本当に熱意をもってやる教員がたくさんいればもっと増えると思う。自分も10年ほど前まではやっていたが、やっぱりだんだん社会の情勢が変わってきたのと、いろいろな学校現場も難しくなってきたので、いろいろな問題点が出てきている。【花本委員】 ●中学校の武道が必修化して、体育の授業の中にも入るようになったが、柔道や剣道を専門にしている先生がいないのではないかと。体育の教員を目指す、柔道や剣道を専門にしている人がそっちの方に行っていないということがあっているのではないかと。指導者不足、中学校の受け皿として、<u>そういった専門の柔道や剣道の楽しさや魅力を伝えきれていないことも原因としてあるのではないかと</u>。【服部委員】 ●学校運動部活動での柔道と剣道の減少が進んでいるのは、指導者の確保が難しい状況もあると思う。学校運動部活動の指導者の中で、<u>剣道や柔道を専科で教えることができる先生がなかなかいないというのも一つの要因かな</u>と思う。【大岡委員】 ●令和5年度から日本中学校体育連盟が全国中学校体育大会の参加資格を見直し、クラブチームも出場できるようになった。広島市中学校総合体育大会にも柔道や剣道で地域クラブとして道場単位で参加できるようになったと思うが、<u>学校部活動や道場に影響はあるか。これまで、道場などで活動していても中学校進学時に部活動が無ければ他の競技に流出していくということがあったかもしれないが、これから道場単位で大会などに参加できることが根付いてくると、道場で練習した人が、中学校の部活動に入らなくても柔道や剣道を続けていけると考えるがどうか</u>。【大岡委員】 ●全中の大会の参加資格の見直しによるクラブチーム等の参加の動きについて、その傾向はある。今年度は団体も組めた地域もある。今までは引率特例で、保護者が連れて行ったが、各道場、スポーツ少年団の責任者が連れて行く形もできた。今後、<u>その方が多くなるのではないかと</u>。ただ、柔道は校長先生が怪我を非常に気にされる。だから、指導者がしっかり見て怪我が無いようにやればいいのか、教員は何かあったら動かなければならぬなどずっと部活を見ることのできない状況がある。僕は今は部活専門で見ているから、ずっと2～3時間見るが、そういうところも学校の中身をどこかで変えていかなければいけないと思う。【花本委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校の教員に柔道や剣道の専門の指導者がいない、また、中学校に部活動が無いために、競技を継続することが難しい状況があるという意見があった。 その一方で、令和5年度から中学校体育連盟の大会に、中学校の部活動ではないクラブチームが参加できるようになり、競技を継続したいと思う競技者や指導者に動機付けができる状況に変わってきている。さらに来年度は一部競技で「別々の学校同士でも出場が認められる」、「在籍する学校の都道府県とは異なる自治体の地域クラブからも出場できる」といった出場条件の緩和が検討されている。 こうした動きを機に、<u>中学校以外で競技が継続できるように、競技団体等と連携し、競技を継続することができる場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討する</u>。 ※ 柔道や剣道を指導できる教員の学校への配置については、保健体育科の授業や部活動で様々なスポーツがある中で、柔道と剣道だけ専門の教員の確保ということは困難であり、さらに教員採用にも関わることであるため、現実的には難しい

広島市における競技人口減少種目等への対応について

区分	研究会での主な意見	対応の方向性
<p>中学校の部活動の状況について【続き】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今回の広島市中学校総合体育大会の結果を見ると、バドミントン・新体操・バレーボールなどでもクラブチームが出場していた。そのようなことから、学校運動部活動在籍数の折れ線グラフは下降気味ではあったが、競技人口全体で考えれば、急激な下降は見られないのではないかと考える。ただし、部活動に選択肢があれば競技人口も増えると考えるので、学校運動部活動への取組も考えていかないとはいえないと思う。【大岡委員】 	<p>と考えられる。</p>
<p>競技場所（競技施設）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●広島市内のスポーツ施設を管理運営している観点で言うと、市内8区のスポーツセンターに体育室があるが、競技団体の大会や地域のスポーツ活動などで多くの利用希望があるので、皆様の希望どおりに活動場所が確保できていないというのが実情と感じている。このことから、ハード面でも不足していると考えている。広島市スポーツ協会としては、指導者の養成や選手の発掘や育成についても事業を実施しておりますので、競技団体の皆様と一緒に何か良い策を模索できればと考えている。【大岡委員】 ●地域の身近なスポーツ施設は学校体育施設だと思う。しかし、地域の皆さんがスポーツ活動を行う際には、スポーツセンターの体育室を希望される。理由としては、スポーツセンターには冷暖房施設や駐車場などが整備されていることが考えられる。地域の皆さんのスポーツ活動の希望に加え、いろいろな競技団体から体育室の利用希望をいただく状況で利用調整をしているので、希望どおりに場所を供給できない状況にある。学校体育施設では、剣道の例で出ていたが、床面が板張りのところもあれば、そうでないところもあることから、できる競技とできない競技とができてしまうと考える。また、昨今の猛暑で熱中症の対策も考えれば、競技団体としても地域のスポーツ活動にしても、空調管理ができるスポーツセンターを望まれるという実情もある。今後の気候変動のことも考えれば、空調設備の整備も考えていく必要があると思う。【大岡委員】 ●広島に武道館が無いというのが大きな問題である。中国地方の他県を見ても広島県だけが武道館が無い。もちろん広島市に活動できる場所はあるが、多目的で使われている。以前は、県立体育館の場所に武道館があり、非常に使い勝手がよく、そこで活動することもできた。一般の人、高校生、中学生がそこで活動し、先輩が後輩に指導をするという状況があった。今はそういう場を作ればいいが、どこかを借りてやらなければいけない。【花本委員】 ●武道館の件でも、単に造ってくれ造ってくれというだけではダメで、みんなが連携して、次に運営方法をどうするかということまで考えていかないとはいけない。【市原座長】 ●施設について剣道場という床張りの場所でないといけないので特定される。総合的な体育館では足を痛める。スポーツセンターでも南区と安佐南区に武道場があるが他はない。小学校や中学校の体育館でやっているというのが現状。【名越委員】 ●県立体育館に武道場があるが、剣道だけでなくいろいろなスポーツをやるから場所が取れない。前は常設の柔道場、剣道場があって、誰でも行って練習ができた。仕事帰りに行ったり、子供も連れてやってもいいと。そういうのがあったので、競技人口もそうだし、盛んになった。【名越委員】 ●現在、広島市の競技施設は非常に少ない中、広島県の国体選手の7割は広島市で抱えているのが現状。今後、スポーツ王国広島を目指すならば、広島県全体の連携が不可欠と思う。特に競技施設に関しては、各市町村がそれぞれ個別な競技施設を有し競技別拠点のネットワークを構築し、例えば柔道は、度々日本代表が合宿練習をする東広島市を拠点とする柔道場をつくるか。先般、高垣東広島市長を訪ね、東広島市は「酒都」であるから、お酒は神事に通じるので、酒屋さんと協賛し弓道競技の拠点をと薦めた。また、世界遺産で日本3景の一つである美しい宮島の海をトリアスロンの拠点にと、廿日市市長に進言して幾多の国際試合を誘致した。また、八千代辺りの山間部では射撃とか、県全体でスポーツの総需要を高めて、広島市に受け皿の「ハイパフォーマンススポーツセンター」のようなものをつくり、新しい「スポーツ王国」つくりを進めればと思う。柔道だけ、剣道だけ、広島だけに限定せず、多くの競技種目を県全体で支えるネットワークづくりの方策を今後考えるべきじゃないかと思う。【市原座長】 ●行政に至っても時代の流れや国際化に敏感な対応が求められる。今、体育館や競技場は学校の体育をする施設であって、観客を入れるスポーツ施設はアリーナとスタジアムという呼称に変えようという動きが始まっている。アリーナとスタジアムにはエンタメ仕様が施され、お金を払って観る人に喜びと満足を与え、しっかりと入場料を得ることによってスポーツ団体自体の財政も潤いスポーツ振興を高める。こうしたスポーツの産業化を国は進めているが、未だそういう考えが地方自治体に伝わっていないように感じる。競技団体もそうした時代の流れを察知し、不易の部分はしっかり守りながら、時代に添って流行を追っていくことが肝要と思う。【市原座長】 	<ul style="list-style-type: none"> ■市内8区のスポーツセンターは、競技団体の大会や地域のスポーツ活動などで多くの利用希望があるが、希望どおりに活動場所が確保できておらず、ハード面でスポーツ施設が不足している現状が見られるとの意見がある。 実際、スポーツ大会等の開催のための年間利用調整において、令和5年度の土日祝については、8区のスポーツセンターでの大会等の利用要望が年間1,115件あったのに対し、調整できたのは、873件にとどまり、242件は利用を断っている状況となっている。 また、他の意見として、中国地方の他県には武道館があるが、広島県だけが武道館が無い状況であり、広島市にある県立体育館の武道場も多目的に使われているため、なかなか使えないといったものや、競技施設に関しては、柔道だけ、剣道だけ、広島市だけに限定せず、多くの競技種目を県全体で支えるネットワークづくりの方策を今後考えるべきであるといったものがあった。 上記のとおり、各区スポーツセンター等における各種競技団体が主催する市民等の参加型のスポーツ大会等の利用調整において、調整が非常に困難であり大会等の開催が難しくなっているなど、特に屋内競技用のスポーツ施設が不足している状況が見られることから、スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討する。 まずは、各区スポーツセンター等の競技種目ごとの利用状況の調査や広島市スポーツ協会に加盟する競技団体へのヒアリングの実施、スポーツセンターの年間利用調整の分析など、競技種目ごとの施設の過不足の状況を把握するための実態調査を行う。 なお、研究会において、スポーツ施設の活用や新たな場所の確保については、広島市だけでなく広島県など広域的に考えるべきとの意見があることを踏まえ、広島県内及び広島広域都市圏内の施設についても調査対象とする。 また、既存の施設の有効活用の観点から、学校体育施設開放事業の対象となる学校や体育施設の拡充等にも取り組む。

広島市における競技人口減少種目等への対応について

区分	研究会での主な意見	対応の方向性
<p>スポーツツーリズムとスポーツ施設（武道館）の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツは単に勝ち負けだけが価値ではなく、スポーツが持つ力をツーリズムで、他の分野と連携させて行こうという新たなスポーツ界の動きがある。柔道や剣道はインテグリティの高いスポーツだから、その特性から子供達は競技を通じて日本の伝統である礼節文化を醸成させ次世代に継承していくことができる。そういうことを制度として学校スポーツに取り込み、健全な青少年の育成を学校教育で育むのが本来の学校スポーツであったように感じる。そうした意味において今後、柔道、剣道だけでなく空手道や弓道など「道」の付くスポーツが連携し日本の礼節文化を継承するためにも武道館は必要である。連携すれば総需要が高まり、それぞれの競技人口増に結びつくと思う。【市原座長】 ●本年に入り、経済産業省とスポーツ庁が連携して「スポーツ未来開拓会議」を月3回程度開催しスポーツの産業化を目指している。その中でスポーツと観光が取り上げられている。現在の広島は外国人の観光客が多く、彼らの興味は、先ず、原爆ドームの平和公園で、次は宮島。それから京都に寄るパターンが多い。つまり、日本の伝統文化に接する目的の観光客が殆どのように見受けられる。広島市はこうしたインバウンドを取り込むために武道館をつくり、柔道や剣道や弓道などを体験させながら、附属施設でお花を生けたり、お茶を嗜んだり日本文化に触れる機会をつくり、スポーツが観光に寄与できればと、色々なアイデアが浮かんでくる。【市原座長】 ●私は、東京から月に1回新幹線で広島市に参るが、新幹線で広島に降りる人の8割ぐらいは外国人で、そのうちの8割ぐらいは欧米人である。彼等は何に興味をもって広島（日本）を訪れるかと尋ねると、日本各地の伝統文化に触れてみたいようであった。着物を着てみたい、茶室でお茶を嗜みたい、陶芸や盆栽にも興味があり、剣道や弓も引いてみたいと多岐にわたる日本文化に触れる機会を求めていた。こういうインバウンドは多く京都はもとより金沢など非常に人気が高いようだ。広島は今は観光都市であるから、新たな観光資源を生み出すため武道館を建設し、その附属設備に庭園や池、茶室や陶芸や着物教室等々の日本文化の根城としインバウンドを引き込む。これこそスポーツツーリズムで地方創生になるのではないかと思う。武道の中でも弓道は非常に人気がある。東京で、袴をはいた女性が弓を持った姿で電車に乗っているのをよく見る。そういう意味で、「道」の付くスポーツの振興には武道場造りは不可欠である。【市原座長】 ●外国人の人はやりたい。やりたいが、どうすりゃいいですかという、機会が与えられていないのが現実。実際にやっている人もいるけど少ない。【名越委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本文化に関心のある外国人をターゲットとして、広島を訪れる外国人旅行者に、剣道や柔道、弓道など「道」の付くスポーツ等を体験させるスポーツツーリズムのアイデアについて、まずは、外国人旅行者等を対象としたニーズ調査や、短期的な取組として、現行の施設の活用などにより体験が可能な場の提供の試行実施について検討する。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●我々スポーツ人や組織は考えが固すぎるんじゃないかと。総てルールにはめなければいけないとルールに固執して、一歩も踏み出せないケースが多く見受けられる。「求同求異」という言葉があるが、これは同じことを求めるんだけど異なった方法でアプローチするということであるが、スポーツ界はアイデアに乏しいようにも感じる。学校で英語やフランス語を教えても身の入らない生徒も、eスポーツを始めたら、必要に応じ英語を覚えなければならないので、一生懸命英語の勉強をやり始めたとある学校の先生が言っていた。スポーツ団体も今までのやり方でこっちにおいでと誘うのではなく、総てに工夫を凝らした柔軟な姿勢での対応が大切であると思う。【市原座長】 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 各競技団体等の考え方については、時代や組織の特性等により変化することも考えられるが、この点については、それぞれの組織に委ねることとする。

広島市における競技人口減少種目等への対応について

5 今後の取組

第6次広島市基本計画のスポーツ振興の取組に掲げた、①「市民スポーツの振興」、②「スポーツ環境基盤の整備・充実（競技力の向上）」、③「スポーツを通じたまちの活力創出」の基本方針に沿って、本研究会のテーマに関連する取組の方向性及び各種取組を整理し、それぞれの方針ごとに、ソフト面及びハード面について取組を進める。

特に、ハード面においては、「広島市公共施設等総合管理計画（平成29年2月策定）」の「スポーツ施設の方向性」を踏まえ、活動型と観戦型の施設の役割による区分や競技種目の用途に応じて、適切な施設の数や規模、配置バランスを検討するとともに、施設の整備に当たっては、市有運動施設のほか、県有運動施設及び広島広域都市圏内の運動施設との役割分担も考慮しつつ検討を行う。

① 市民スポーツの振興

全ての市民が生涯にわたり心身共に健康な生活を営めるよう、日常的にスポーツに親しむ機会を充実させる。

ソフト面の主な取組	スポーツに参加する機会の提供（初心者へのきっかけづくり等）や、競技活動を維持できるようにするための場づくりや、「競技者」・「指導者」・「場所」のマッチングの仕組み・仕掛けづくりなどに取り組む。 また、各地域コミュニティにおいてスポーツ・レクリエーション活動を担っている学区体育協会等に対する活動支援を行う。
ハード面の主な取組	市民ができる限り身近な場所でスポーツができるよう、市民の日常的なスポーツ活動の場となる「活動型」の施設である運動広場や学校のグラウンド・体育館（学校体育施設開放事業の実施）などの場所の確保に取り組む。

<新規の取組>

● 競技継続の場の確保及び競技者・指導者・競技場所のマッチングの取組

中学校で部活動が無いなど、競技を続けることができない者がいることから、競技を継続できるように、競技団体等と連携し、中学校の部活動以外での競技活動の場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討する。

● スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討（施設の過不足状況の実態調査等）

各区スポーツセンター等における各種競技団体が主催する市民等の参加型のスポーツ大会等の利用調整において、調整が非常に困難であり大会等の開催が難しくなっているなど、特に屋内競技用のスポーツ施設が不足している状況が見られることから、スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討する。

このため、各区スポーツセンター等の競技種目ごとの利用状況の調査や広島市スポーツ協会に加盟する競技団体へのヒアリングの実施など、競技種目ごとの施設の過不足の状況を把握するための実態調査を行う。

なお、研究会において、スポーツ施設の活用や新たな活動場所の確保については、広島市だけでなく広島県など広域的に考えるべきとの意見があることを踏まえ、広島県内及び広島広域都市圏内の施設についても調査対象とする。

<拡充する取組>

● 競技団体が開催するスポーツ体験教室等の子供達への周知・PR

周りに経験者等がない環境においては、子供達自身がやってみたいスポーツ等を体験する機会が得られにくいことから、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、競技団体が開催するスポーツ体験教室等を掲載したチラシを全小学生に配布することで、子供達へ周知・PRする。

本取組は、令和5年度は、年1回（7月）の配布であったが、今後、各スポーツのシーズン等に合わせ、作成・配布を年2回に増やすなど、拡充を図る。

● 競技団体と連携した初心者向けスポーツ体験教室の開催

スポーツ初心者の子供達やその保護者が、自分がやってみたいスポーツに触れることができる機会が得られにくいことから、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、初心者向けスポーツ教室を開催する。

その際の役割分担として、競技団体は、指導者の確保を含む教室の企画・運営を行い、市は教室の広報や会場の確保などを担う。

● 学校体育施設開放事業

既存の施設の有効活用の観点から、市民の身近なスポーツ活動の場を確保するため、学校のグラウンドや体育館等の体育施設を、学校利用の支障のない範囲内で、地域に開放する。

当該事業のために設置しているグラウンド照明やトイレ等を適正に維持管理するとともに、既に多くの学校においてグラウンドや体育館等が開放されているが、現在、開放されていない学校についてもできるだけ開放されるよう、学校等との調整を行う。

<参考：市民スポーツの振興に係る既存の取組>

● スポーツ・レクリエーションフェスティバル等の開催

市民レベルのスポーツ・レクリエーションの祭典として、「スポーツ・レクリエーションフェスティバル」や各区民スポーツ大会を開催する。

● 各区スポーツセンター等でのスポーツ教室の開催等

各区スポーツセンター等において、幼児から高齢者までの市民を対象に、それぞれのレベル等に応じてスポーツに触れることができるよう様々なスポーツ教室を開催する。

● 学区体育団体等への事業補助

小学校区を単位とする学区体育協会や広島市学区体育団体連合会が実施するスポーツ・レクリエーション活動に対して補助金を交付する。

● スポーツ施設の適正な運営・維持管理

各区スポーツセンター等のスポーツ施設を適正に運営するとともに、必要な維持管理を行う。

● 広島市立学校プール開放事業

広島市のスポーツの振興及び青少年の健全育成を図るため、学校教育に支障のない範囲内で、夏休み期間に市立小学校のプールを開放する。

● スポーツ施設の整備

吉島屋内プールの老朽化に伴う建替え、広島西飛行場跡地への多目的スポーツ広場の整備などを行う。

広島市における競技人口減少種目等への対応について

② スポーツ環境基盤の整備・充実（競技力の向上）

スポーツ活動・環境を支える組織や体制の充実、スポーツボランティアやジュニア選手を育成する指導者の養成などを行うとともに、既存スポーツ施設の有効活用や多目的スポーツ広場等の新たなスポーツ活動の場の創出など、競技力向上に寄与するスポーツ環境基盤の整備とその充実に取り組む。

ソフト面の主な取組	県・市レベルで組織する各種競技団体などに対する活動支援や、競技力向上のため一定程度以上の知識・技術・指導力を有する指導者の確保及び養成等に取り組む。 また、国民スポーツ大会等へ出場するジュニア選手の育成を目的とした優秀な指導者の招へいやジュニア選手の活動支援などに取り組む。
ハード面の主な取組	「活動型」の施設のうち、県大会等の開催が可能な一定規模以上の施設（各区スポーツセンター、中央庭球場など）の確保等に取り組む。 なお、適切な施設の数や規模、新たな場所の確保等の必要性については、競技人口や既存施設の稼働率、充足状況などを判断基準とする。

<新規の取組>

● 大学等と連携した指導者の確保

大学（学生）の有効活用という観点から、運動部のある大学等と連携し、大学等の運動部員を指導者として招いて、小学生や中学生等の指導を依頼するように調整を図る。

● 競技団体と連携した指導者の発掘・育成

指導者の発掘・育成が課題となっていることから、指導未経験者や指導者になることを検討している者等を対象に、競技団体による講習会・研修会を実施する。

なお、中学校の部活動の地域移行において、学区体育協会やスポーツ少年団等の地域団体等に中学生の部活動の指導を依頼等することを検討しているが、その際の指導者研修にも活用する。

● スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討（施設の過不足状況の実態調査等）※再掲

各区スポーツセンター等における各種競技団体が主催する市民等の参加型のスポーツ大会等の利用調整において、調整が非常に困難であり大会等の開催が難しくなっているなど、特に屋内競技用のスポーツ施設が不足している状況が見られることから、スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討する。

このため、各区スポーツセンター等の競技種目ごとの利用状況の調査や広島市スポーツ協会に加盟する競技団体へのヒアリングの実施など、競技種目ごとの施設の過不足の状況を把握するための実態調査を行う。

なお、研究会において、スポーツ施設の活用や新たな活動場所の確保については、広島市だけでなく広島県など広域的に考えるべきとの意見があることを踏まえ、広島県内及び広島広域都市圏内の施設についても調査対象とする。

<拡充する取組>

● スポーツ指導者養成事業

国内の優秀な指導者又は学識者を招へいし、広島市スポーツ協会に加盟している競技団体や広島市スポーツ少年団の指導者を対象に、講義・実技・研究協議など競技力の向上に視点をいた講習会・研修会を開催しているが、場所が確保できずに開催を取りやめているケースがあるため、場所の確保について支援するなどの制度拡充を行う。

また、広島市スポーツ協会に加盟している競技団体の指導者が、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者制度に基づく指導者養成講習会等を受講する場合に、旅費を助成しているが、これについて受講対象者を増やすなどの拡充を行う。

<参考：スポーツ環境基盤の整備・充実（競技力の向上）に係る既存の取組>

● スポーツ少年団指導者養成・研修事業

スポーツ少年団の指導者の相互の連携と資質・指導力の向上を図ることを目的に、スポーツ少年団の指導者に必要な知識を習得するスポーツ少年団指導者会議を開催する。また、全国研究大会へ指導者を派遣する。

● ジュニア選手医科学サポートの実施

成長期にある選手の競技寿命の延伸と競技力向上を図ることを目的として、競技団体に所属する将来が囁望され、推薦を受けたジュニア選手を対象に、広島大学病院スポーツ医科学センターにおいて、メディカルチェックを行う。また、推薦されたジュニア選手等を対象に、医科学サポート講義を開催する。

● 国民スポーツ大会等を目指すジュニア選手育成事業

将来、国民スポーツ大会等へ出場するジュニア選手を育成することを目的に、各競技の優秀な指導者を招へいし、小・中学生の段階から競技の特性を考慮した5年間の指導計画を基に継続的に指導を実施する。

● 強化指定選手発掘・育成事業

団体育成及び国民スポーツ大会で活躍が期待されるジュニア選手の競技水準の向上を図ることを目的に、強化練習会、遠征を計画的に実施するとともに才能あるジュニア選手の発掘を行う。

③ スポーツを通じたまちの活力創出

国際的・全国的なスポーツ大会などの誘致やトップス広島等との連携による地元プロスポーツチーム・企業スポーツチーム等の振興など、スポーツを通じたまちの活力創出を図る。

ソフト面の主な取組	市民がトップスポーツ選手等を間近で見られるよう国際的・全国的なスポーツ大会の誘致に取り組むとともに、地元プロチームや企業チームが数多くあるという強みを生かし、トップチームと連携したスポーツ振興に取り組む。
ハード面の主な取組	全国的な競技大会やプロスポーツ等の観戦の場となる「観戦型」の施設について、既存施設を有効的に活用するとともに、新たな施設の整備については、その必要性や市民の機運醸成の状況などを見極めながら判断し、市として必要に応じた支援を行う。

<新規の取組>

● 武道等を活用したインバウンドを対象としたスポーツツーリズムの推進

日本文化に関心のある外国人をターゲットとして、広島を訪れる外国人旅行者に、剣道や柔道、弓道など「道」の付くスポーツ等を体験してもらうスポーツツーリズムに関する意見を踏まえ、まずは、外国人旅行者等を対象としたニーズ調査や、現行の施設の活用などにより体験が可能な場の提供の試行実施について検討する。

<参考：スポーツを通じたまちの活力創出に係る既存の取組>

● スポーツ大会開催支援

広島市域において開催される各種大会（中国地方の大会、西日本の大会、全国大会）に対して、その規模に応じて、経費の一部を補助する。

● 国際・全国規模のスポーツ大会開催支援

「織田幹雄記念国際陸上大会」や「天皇杯全国都道府県対男子駅伝競走大会」などの国際大会や全国大会に対して、補助金を交付する。

● トップスポーツ観戦ラリー事業

トップス広島（NPO 法人広島トップスポーツクラブネットワーク）に加盟するチームのホームゲームを観戦し、チームスタンプを集めた者の中から抽選で、チーム提供の賞品を進呈する。